

# 会 議 録

<会議名称> 令和4年度 第5回岸和田市小中一貫教育推進会議

<開催日>令和4年11月15日(火)

<時 間>15時30分~17時

<場 所>岸和田市教育センター 1階 視聴覚研修室

<出席者> ○出席、■欠席

(学校関係者)

和泉校長	北川校長	南教頭	上ノ山教頭	何森教諭	川本教諭
○	○	○	○	○	■

(教育委員会事務局)

片山学校教育部長 (委員長)	松本学校教育課長 (副委員長)	八幡人権教育課長	角銅指導主事
○	○	○	○

(学識経験者)

山口教授
○

<議題等>

1. 教育委員会挨拶
2. 協議
3. 今後の予定

<当日配布資料>

- ・「(仮称) 新たな科」について

## 1. 教育委員会挨拶

### 【片山委員長】

こんにちは。学校教育部の片山です。

本日も何かとご多用の中、第5回岸和田市小中一貫教育推進会議にご出席いただきましてありがとうございます。

先月行いました第4回の推進会議では、先に進めていただくいわゆるモデル校区として、「桜台中学校区」を指定するご報告をいたしました。また、今後実際に取り組んでいただくことを想定したうえで、取組みの土台となる計画書の中身について協議しました。委員の皆さまのご協力により、小中一貫教育の実施に向けて、少しずつ進んできていることを実感しております。

さて、5回目となる今回は、小中一貫教育基本方針にも示しております「新たな科」について協議を進めてまいります。この後、担当より趣旨等の説明がありますが、「新たな科」は岸和田市の小中一貫教育の柱として計画しているものです。基本方針の中では、岸和田市オリジナルの教材を一から作成するとしておりますが、委員の皆さまのご意見を十分にいただきながら、丁寧に議論していきたいと考えております。

そこで本日も、学識経験者として、関西福祉大学 教育学部 児童教育学科 教職センター教授 山口偉一先生にご参加いただいております。ご多忙の中、また遠方よりお越しいただき、誠にありがとうございます。どうぞよろしくお願ひします。

1時間半という大変限られた時間ですので、委員の皆さまには、ぜひ積極的にご発言いただき、実のある会議にしたいと思ひます。

それではこの後、どうぞよろしくお願ひします。

## 2. 協議

### 【片山委員長】

それでは本日の協議として、事務局より「(仮称)新たな科について」を資料として出しているのひので、まずこの資料について事務局より説明をお願ひしたい。

### 【角銅委員】

(別紙「当日配布資料」にしたがって説明)

### 【片山委員長】

今の説明で感じられたことひ質問など、幅広にご意見をいただきたいと思ひう。

### 【南委員】

今の説明の通り、地域のことでというひ、やはり総合的な学習の時間で進めるということになるのかなと思ひうが、中学校の総合にどのようひに繋がっていくのか、あまりイメージが湧かない。中学校ではどう扱えるのか。

#### 【北川委員】

自分自身は歴史的なことをイメージする。例えば自分の校区であれば古墳が思い浮かぶ。いずれにしても小学校1年生から積み上げていくものをはっきりと作っておかないと、9年間の学びが繋がっていかない。おそらく教科横断的な部分も出てくるのかなと思う。まず教材を作り上げて、一度やってみる。そこで改良を加えながら、しっかりとしたものを作っていく。ただし、これを4月までの間にするのなら、早く校長会でおろして進めていかないと難しいのでは。

#### 【片山委員長】

各学年でおさえるべきこと、そしてそれにどうアプローチするか。ゴールをしっかりと決めておかなければならない。小学校3年生、4年生、5年生と階段をのぼるように内容を作る必要があるだろう。小学校と中学校とでそれぞれ作っていくと、お互いにつき合わせる場面も必要になるだろう。

それから、スケジュールのことについて出たが、それについてはどうか。

#### 【角銅委員】

これについては、時間をかけて丁寧に協議をして作っていく方がいいと思う。最低でも5年にかかると考えているので、スタートは早くても令和9年度を想定している。

#### 【何森委員】

もう少し、想定されていることを教えてほしい。新たな科を実施するのは、総合的な学習の時間に行うことが前提であるという説明であったが、小学校1年生や2年生は総合の時間がないのでどうするのか。また、令和9年度となると、おそらく学習指導要領の次の改訂が見えてくる。極端な想定として、総合的な学習の時間が全てなくなってしまうという可能性もあるがその場合はどうするのか。以前の話だと、内容については全市一律にするという話があったと思うが、具体的にどのようなものをイメージしているのか。総合的な学習の時間については、すでにそれぞれの学校で決まったカリキュラムがあるので、それとの関連性や、どのくらいの時間幅を想定しているのかも気になる。

#### 【角銅委員】

あくまで現時点での事務局案だが、扱うとしたら総合的な学習の時間がやはり活用しやすい。これによって、総合的な学習の時間がまたさらに充実することになり、より良い相乗効果があると考えている。したがって、小学校3年生から中学校3年生の7年間で取り組むことになると考えている。時間幅については、現時点では未定。協議の中で検討していきたい。内容は、基本的には共通の教材ができれば良いと思うが、校区の状況もさまざまなので、学習する内容に幅を持たせていく必要があると思う。何か知識的なことを教えなければならないというような内容にしてしまうと、活用しづらくなってしまう。例えば、物事をこのような角度で考えてみようとか、自分たちが住んでいる地域についてこういう角度で調べてみようといったような、学習の進め方を学んでいけるもののほうが良い。学

習指導要領の改訂については、確かにその通りで、ただ現時点でそのことについて考えていることはないので、今後注視しながら進めていきたい。

**【片山委員長】**

今説明にもあったように、教材を作ったとしても、その中身を覚えるといった知識的なことを学ぶということになれば、小学校3年生から中学校3年生まで、優しい内容から高度な内容まで系統的に並べないといけない。そうではなく、それぞれの学年でこんな力をつけるために、こういう切り口で考えればどうかというようなもの。よく言われる教科書を学ぶのではなく教科書で学ぶというようなもの。要は、その教材で学び方を学ぶということ。例えば、地域の人にインタビューするとか、自分で取材に行くとか。

**【和泉委員】**

あまり教科書的なものではないイメージだが、やはり作るとなると難しいとは思う。特に系統立てたものを作るというのは、なかなか難しいだろう。岸和田市にすでにある社会科副読本も自分たちで作っているが、なかなか時間と費用と労力がかかっている。一旦作れば定期的に改訂していくこともあるかもしれない。相当覚悟をもって進めていかないといけない気がする。

**【片山委員長】**

事務局より説明があったように、子どもたちが課題を自ら見つけて、その課題を解決するための道筋を自分たちで考えて、それを調べることになるかもしれない。フィールドワークをすることもできるかもしれない。そういう活動等をしてしながら、課題解決するにはどんな方法がいいのかを考える。そしてその成果を発表するといったような、活動をするにあたっての教材というイメージだろう。

**【角銅委員】**

やはり総合的な学習の時間を想定すると、探究的な学びが実現されるべきだと思うので、それぞれの教室で進めるにあたって学習の支えになるようなものになればいいなと思う。例えばこういった切り口で、こういう活動をしてみたらどうだろうかとか。そういったようなことが中心に据えられたようなものを想定している。社会の教科書や資料集とかではなく、子どもたちが学習を進めるにあたってこの教材をなぞっていけば探究的な学びが実現するようなものが良いと思う。小学校3年生と4年生にはすでに社会科副読本があり、その中で岸和田の地理的なことも含めて学習するので、それに重なる内容を作ってしまうと意味がない。知識的なことを学ぶ教材ではないほうが良いと考える。

**【何森委員】**

例えば、入り口となる切り口は示すが、学習の終末というか展開は示さないイメージか。小中が系統的に取り組めるものという話について、一般的に教科はそもそも系統的なものだが、体系がないものは並べることはできても系統的にというのは難しい。発達段階もあ

り、学習内容もいろいろあって、体系がないものを系統立ててというのはどうするのか。一方で、求められる力を育成するものというときに、教材を例えば2年間かけて作ったとして、その後小学校3年生から中学校3年生まで7年間使われるので、少なくともその教材が9年間使われるイメージか。そうすると、もはや求められているものなのかどうか。その教材に出会ったときに、現代的な課題を学ぼうとすると、そういった難しさも出てくる。

#### 【角銅委員】

当然、求められるものは、時代とともに変わっていく可能性はある。その点については、現時点でどのように対応するか想定していないが、念頭に置いておきたい。また、これからの予測不可能な時代をたくましく生き抜くために、子どもたちがさまざまな物事を判断したり、考えたことを表現したりするような力を全ての教科等の中で培っていかねばならない中で、とりわけ総合的な学習の時間の中での探究的な学びの中でその土台となるような力を育てていくことを考えれば、その支えになるような教材であればいいなと思う。当然、時代の流れの中で改訂する場面は出てくるだろう。そのスケジュール感については、現時点では具体的に計画はしていない。系統性については、学習指導要領で示される総合的な学習の時間の系統性に沿って考えていくことになる。

#### 【山口教授】

今の議論の中でとても大事だと思うのは、内容の系統性を追い求めてもそれは難しいということ。この場で方向性をしっかりと決めておく必要があるのは、内容ベースでこの教材を作るのではなく、あくまでも岸和田市で学んだ子どもたちが、このような資質能力を9年間で身につけていくということをもとめたものであるということ。言い方を変えると、資質能力をベースにして積み上げていくことで、系統性がとれるのではないか。おそらく学習指導要領については、今後さらに探究ということが前面に出てくると思う。そういう意味で言うと、目標内容方法ということできっかりと整理しておけば、これからの学習指導要領の改訂の方向にも合致していくという感じは受ける。ただ、やはり心配なのは先生方が新たな取組みとして進めていくということであれば、負担があるだろうということ。ただ一方で、事例を示してもらえるとということも、向かっていくものが明確になってきて、わかりやすいということもある。その際市としては、各学年でここまでめざすという資質能力ベースで積み上げたものを、何らかの具体的事例を示しながら支援していく必要はあると思う。

今の議論は、みなさんととても柔軟な発想をされているので、その柔軟な発想をうまく繋ぎ整理していけば、方向性が見えてくる気がする。

#### 【和泉委員】

学生科学賞などを見ても、学年ごとに探究の深みが違うと思う。例えばブナ林を取り上げた場合に、それをどのように探究的に学ぶか。どんな植物があるのだろうかというレベルから、この自然を守り育てていくにはどうすればよいのだろうかというレベルまで、探究の

質は発達段階で変わる。岸和田にはこういう物がある、こういう人がいる、といったことの提示ができれば、教材としていいのかなと思う。

**【片山委員長】**

自然であれ、文化であれ、そういうものを料理するのが学校。料理するには食材が必要。その食材は、教材として提供するといったことか。そもそも、総合的な学習の時間は、教科書がない。子どもが自ら課題を発見し、探究的な活動が進んでいく。そういった意味で、教材の提供は有効な部分はある。

**【八幡委員】**

話は少し変わるが、姫路市の人口の状況は。

**【山口教授】**

少しずつ減っている。ほぼ横ばい。

**【八幡委員】**

岸和田は右肩下がり。子育て世代が減ってきている状況。こういう状況を改善させるためにも、子どもたちが自分たちの将来の街づくりなどを考えることができると思う。

**【和泉委員】**

今回計画している教材の体裁は。今この時代なので、デジタルの方がいいのかなと思う。改訂のことも考えると、更新もしやすい。

**【角銅委員】**

改訂も容易なので、事務局のイメージはデジタル。今後の議論の中でご意見をいただきながら判断したい。

**【山口教授】**

ちなみに一つ事例を出すと、姫路城周辺の学校では、総合の学習について交流している。お城やその周辺の状況について調べたことを、1年に1回、私たちの学校はこういう学習をしていますということ、ネットでつながって学びを共有している。このような学習のあり方を今後はますます考えておく必要がある。いかに学びを共有するか。今、離れた場所であっても、ネットをつなぐと簡単に学びを共有することができる。学びを共有すると、自分の学びをメタ認知することになる。まさに今求められる力をつけることにもつながっていくので、最終的にこういう資質能力をつけていこうということ、しっかりと見据えて議論していくことが大事だろうと思う。

**【何森委員】**

内容はやはり固定しないほうがいいのではないかと。一定の時間数をとって、総合的な学

習の時間に入れるとなると、今までそれぞれの学校で特色として取り組んできたことができなくなることが考えられ、望ましくない。あるいは固定的なカリキュラムがなくても、教科の中で子どもたちが気づいたことを、総合的な学習の時間で探究的にことに学習してきたはずで、それを押しつけるのも違うと思う。あくまで事例としては示すが、そこまで固定的ではないという形にしてほしい。また、目的から離れる感じがするので、何時間かこれをしないといけないというようになると難しいと思う。

**【八幡委員】**

検証をする必要は絶対にある。進みだすとなかなかストップしにくくなるので、例えば、要項の中に見直す時期を設定して、その時点で方向性を再度確認するといったシステムが必要ではないか。

**【片山委員長】**

検証の一つの軸は育てる資質能力であろう。どのくらい力がついたのか、それをどのように見取るかということはよく検討する必要はある。それをふまえて内容を変えるのか、続けるのか、なくすのか、当然検証は必要である。

新たな科については今日が初めての協議で、次回は今回の議論をふまえて少しずるイメージ化をしていきたいと思う。さまざまな角度からご意見をいただきたい。

**【上ノ山委員】**

総合的な学習の時間を使って、新しく提供されたものを取り組まなければならないようになると、今まで計画的に取り組んでいたことができなくなるというのは気になる。

**【北川委員】**

本校で実施している授業評価の観点は5つあるが、平均点が一番低いのは、「この授業を受けてもっと学びたくなりましたか。」という観点。新しい科によって、もう少し何か学びたいと思えるような仕掛けができればと思う。

**【山口教授】**

全くその通りだと思う。学ぶことの醍醐味を味わうということが大事だろう。そのためにも、自分たちが学んだことを、発信できるような場を保障してあげたい。

**【和泉委員】**

資質能力の系統性がはっきりしていて、教材の形をデジタルで作るということであれば、まとまった完成形を出すよりも、こういうものができたので使ってみないか、というように、少しずつ出していってもいいのではないか。

**【片山委員長】**

それをどう使うかはわからないが、使えそうと思ったら発信して、という形も可能性

としてあると思う。

今日もたくさん意見等をいただいたので、事務局でまとめて、次の推進会議で修正案をお示ししてまた議論を重ねたいと思う。

#### 【何森委員】

最後に確認したい。モデル校区の件について当該の学校で説明するにあたって、少なくともモデル校間で説明の相違がないようにという話があったと思うが、現状どのような状況か。12月には、校長会でも周知されるという話もあったので、今どういう段階なのか教えてほしい。

現場の教職員に対する負担に配慮してほしいということを、これまでの推進会議の中で何度も確認しており、それについて、モデル校にニュアンスも含めてしっかりと伝わるのかということに対して、どこの学校でも違いがないように説明するという話があったと思う。その説明がもうすでにそれぞれの学校でなされた状況にあるのか、それともまだなのか、現時点の進捗を知りたい。

#### 【角銅委員】

桜台中学校区が、小中一貫教育を少し先に進めていただく校区になったということは、どの学校でもすでに伝えていただいている。ただ、具体のことについては、まだ何も進めていない状況なので、この推進会議での話題やニュアンスなどについては、また今後説明していくことになる。説明にするにあたっての内容については、相違がないよう当該校の校長先生に提供しているので、今後また必要に応じて提供していきたい。

#### 【何森委員】

この推進会議で確認したことが、会議録を全て読まないといけない状況では困るので、確実に伝わるよう配慮願いたい。

### 3. 今後の予定

#### 【角銅委員】

次回は、年明け1月12日（木）に行います。

これで第5回の岸和田市小中一貫教育推進会議を終了いたします。本日はどうも、ありがとうございました。



## 「(仮称)新たな科」について

岸和田市教育委員会 学校教育課

### ■岸和田市小中一貫教育基本方針(令和2年10月策定)より抜粋

#### 3. 新たな科の設置

さまざまな課題を主体的に解決することが、社会で求められる力の育成につながります。そしてそのような学習を、小学校から中学校まで系統的に積み重ねていくことで、児童生徒に確かな力を育むことができます。本市では、海と山の双方の自然に恵まれた地理的環境と、城下町として栄え、岸和田だんじり祭りといった歴史ある行事を有する豊かな社会文化環境を存分に活用し、地域とつながり地域で学ぶための「新たな科」を設置し、系統的に学習を進めていくための教育課程を編成します。

### ■設置する理由

- ・「新たな科」に子どもたちが主体的に取り組み、さまざまな課題を解決することで、社会で求められる力を育成する。
- ・子どもたちが生活する「岸和田」を題材にすることで、地域とのつながりを深め、未来の岸和田を担う力を育成する。
- ・小中学校が同じテーマで学習することで、より効果的に児童生徒の力を育成する。

### ■内容等

- ・小中学校が系統的に取り組めるもの
- ・「学びでつながる」ことができるもの
- ・今求められる力を育成するもの
- ・未来の岸和田を担う人づくりにつながるもの
- ・地元(岸和田)の素材を十分に活用するもの